



取 材 テ ー マ

地域文化の 未来を支える 高校生

海に面し、山に囲まれた庄内地方。
この地理的条件を活かし育まれた豊かな食文化、
古式を残し継承された伝統芸能を、
未来へとつなげるべく頑張る高校生たちを紹介します。



開店初日にもかかわらず、キビキビと働く姿はプロさながら。

Cradle
高校生編集部が行く
スゴハイ16
SUGOI high school students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁

酒田南高校食育調理科

飲食の世界で働くことを目指す高校生たちが運営する「高校生レストラン」が、酒田市のマリーン5清水屋5階にオープンした。調理や配膳を担うのは、酒田南高校食育調理科の生徒35名。調理場、洗い場、サービスの担当に分かれ、プレオープン日も含め10月から12月までの間の計6日間を10名前後

で交代で切り盛りする。2019年10月から行われるJRの観光キャンペーン「新潟県・庄内エリアADC」に向けて、食を切り口に地元から盛り上げを図りつつ、実践を通じ飲食業に携わる人材を育成することが狙いだという。「一定ではないお客さまの来店ペースに合わせて作業をするのが、大変でした」と話すのは、取材に伺った10月6日のプレオープン日に調理を担当した3年生の吉田さ

ん。「緊張してしまい、そこにシミュレーションとは違う流れで注文が入ったりして、かなり焦りました」。サービスを担当した2年生の中村さんも、慣れない環境に少し戸惑いがあったという。同校では年3回開催の「季節の味覚フェア」など、校内に地域の方々を迎え料理を振る舞う機会が多いが、外に出ることはあまりない。通常の授業に加え、外部講師を招いての講習、放課後の時間を使っ

11月、12月の
「高校生レストラン」オープン日時
日にち：11/10、11/17、
12/1、12/15
(いずれも土曜日)
時 間：11:30~14:00

酒田南高等学校



プレオープン日のメニュー、「秋定食」と「庄内豚の角煮ラーメン」。



「味はもちろんですが、衛生面にも細心の注意を払って調理しています」。



夢への一歩を踏み出した、
食の都の担い手たち。

(左から) 吉田健太郎さん(3年生)、中村紗也さん(2年生)。2人とも、将来は飲食の仕事がしたいと考えている。

たシミュレーションなど、オープンに向けて入念に準備をして臨んだが、予想外のことの連続でなかなか大変だったようだ。それでも2人は、「たくさんのお客さまに『おいしかったよ』と言ってもらえてよかったです」と笑顔で話す。将来の夢につながる経験ができたことが、とてもうれしかったようだった。

プレオープン日のメニューは2種。1つは、秋鮭や庄内柿、ぶどうなど、旬の地域食材を使った「秋定食」。「家ではあまり食べられないものを」とあえて内陸風の芋煮を供するこだわりの構成だ。もう1つは、季節の味覚フェアでも大人気の名物「庄内豚の角煮ラーメン」。「とろとろの角煮を味わってほしい」と2人ともに太鼓判を押す自信の一品だ。



3カ月と短いオープン期間ではあるが、今後季節とともにメニューも変わっていくという。「お客さまの動きを見ながら、スムーズに調理ができるように頑張りたいです」と吉田さん。「季節ごとのおいしいものを味わいながら、私たちの元気な笑顔の接客も楽しんでほしいです」と中村さんは言う。「食の都庄内」の未来の担い手たちが頑張る姿を見に、ぜひ足を運んでほしい。

(取材：酒田東高文芸部、酒田西高Cradle編集部)

鶴岡南高校山添校

櫛引地区黒川に伝わる、国指定重要無形民俗文化財「黒川能」。起源には諸説あるが、15世紀後期から16世紀前期には定着していたと考えられている。地域の鎮守である春日神社の氏子たちが上座と下座に分かれ、競い高め合いながら土地の神事として演じ継いできた黒川能は、芸風が能楽の源流に近く、現存する能楽の5流派どれにも属さない希少性もあるという。そんな歴史ある伝統芸能を学ぶ、鶴岡南高校山添校の授業をのぞかせてもらった。



2017年に校内で行われた公演の様子。
(写真提供：鶴岡南高校山添校)



実際に身につけたりしながら、「面」について学ぶ1年生たち。



同校の1年生に黒川能についてレクチャーするのは、現在20代目として下座の大夫を務める上野由部さん。能を見たことがなくても楽しめるようにと、お囃子を奏でる楽器を演奏したり、能舞台に立ち所作を学んだり、実技も取り入れた体験型の授業を展開する。取材に伺った日は、演者が身につける「面」について学び、実際についてみるという内容。「それぞれの面に、性別だけではなく名前や年齢層があるところ、見る角度によって陰影がついて表情が変わる

ところがおもしろかったです」と倫太郎さん。「つけてみたらすごく視野が狭くて、演じるのが大変そうだなと思いました」と汐麗さんは言う。2人とも櫛引地区在住ではなく、この授業を受けるまでは「黒川能」という名前すら聞いたことがなかったというが、知る

ほどに関心が高まり、毎回楽しく学ぶことができているようだ。生徒自身が学び体験するだけでなく、同校では祭事やイベントの際の会場設営のサポートにも取り組んでいる。毎年2月に行われる



2月には「王祇祭」で(上)、7月には「水焰の能」で(下)公演の開催をサポートしている。
(写真提供：鶴岡南高校山添校)



「王祇祭」の際には、雪に埋もれた参道を掘り出すような大変な作業もこなし、観覧者のもとより演者の方々からも大変に感謝されているという。「演者として黒川能を引き継いでいくことは難しいかもしれませんが、こういう形で力になれることはうれしいし、長く続

けたい」と優希さんは言う。彼らのように、少し違った角度から関われる「担い手」を増やすことが、人口減少が加速する中、黒川能のような土地の文化を守りつないでいくためには、必要なのではないかと感じた。
(取材：鶴岡南高芸部)



地域全体が一丸となる、新しい「継承」のかたち。

黒川能の授業について話をしてくれた、生徒会執行部1年生メンバー。(左から)大滝倫太郎さん、小野寺優希さん、小野寺麻衣さん、佐藤汐麗さん。

編集後記



高校生レストラン取材して最も印象に残ったことは、私と同じ高校生たちが地域を盛り上げるため、自分の将来のために働いているということでした。私は今まで、夢を叶えるために行動を起こすことがなかったので、自ら調理や接客を行いレストランを運営している姿にとっても驚かされ、いい刺激をもらうことができました。
(酒東・みおり)



取材させていただくまで、黒川能については詳しく知りませんでしたが、500年以上の歴史があること、それを支えてきたのは上座と下座の切磋琢磨だということを知り、先人たちの知恵に感心しました。授業の一環として、地域の歴史や文化を学ぶことができるのは、素晴らしいなと思いました。(鶴南高芸部)

編集部員&特ダネ まだまだ募集中!

「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先

Cradle事務局
✉info@cradle-ds.jp

編集・文=Cradle高校生編集部、工藤 拓也
写真=間 真由美
協力=酒田南高等学校、鶴岡南高等学校山添校
酒田高等学校、酒田西高等学校、鶴岡南高等学校